

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 766 号 令和 7 年 3 月

目次

○新獣医師会館竣工に当たって（会長理事）	1
○第2回支部長会議開催報告（常務理事）	5
○第66回山口県家畜保健衛生業績発表会を開催（県庁支部 大山ゆき先生）	6
○告示 任期満了に伴う山口県獣医師会役員選任に係る候補者の受付	7
○人間至る処青山有り（山口支部 中間寛徳先生）	9
○山口県動物由来感染症情報関連体制整備検討会 令和6年度第2回会合報告（白銀政利監事）	10
○リレー随筆（豊浦支部 直井秀明先生）	11
○お知らせ 会員異動報告について	12
○事務局だより	12

新獣医師会館竣工に当たって

会長理事 田中尚秋

この度、待望の新獣医師会館が竣工しましたので、建設に係る概況等を紹介し、皆様と共に喜びを分かち合いたいと存じます。

なお、去る令和7年2月16日(日)、山口市小郡ふれあいセンターにおいて中領八幡宮の宮崎宮司様にお越しいただき、山口県農林水産部長の大田淳夫様（知事代理）をはじめ山口県議会議員山手康弘農林水産委員長（山口県議会議長代理）、山口大学共同獣医学部長度会雅久教授等のご来賓や工事関係者各位、会員等多くの皆様にご出席いただき、竣工式を執り行いました。新獣医師会館建設に至った経緯、建設経過報告につきましては、すでに会報で酒井常務理事等から詳しく報告していただいておりますが、当日、網本昭輝検討会議委員長からわかりやすくまとめてご報告いただきましたので、ここに掲載して記録に留めさせていただきます。

《会館取得経過報告》

○平成24年3月に開催された平成23年度第7回理事会において「令和10年を目途に現在の場所に、鉄筋コンクリート造りの新たな会館を建て替える」という山口県獣医師会館新規取得計画が決定された
○昭和48年建築の旧獣医師会館の老朽化が進んだことから、令和3年度第3回理事会において「新会館取得に向けて内部の検討組織の立ち上げ」が承認され、令和4年3月から本年2月まで計11回の「山口県獣医師会館検討会議」が開催された
○検討会議における協議結果については、総務委員

会と支部長会議に報告して意見をいただいた上で、理事会において新会館取得に向けた方針等について審議が行われた

○令和5年3月の令和4年度理事会において「研修室を設置しないなど建物の規模を縮小して、寄付を受けずに取得資金の範囲内で現在の場所に建て替える」方針が決定された

○これを受けて、複数の建築事業者に、本会が希望する建物の仕様を示して提案を求めた結果、5社から新会館の施設設備・参考見積等の提出があった

○令和5年度第4回理事会において「本会の希望を多く組み込んで設計されており、建築経費等が安く積立資金の範囲内で取得できると見込まれる事業者として（株）ファーストホームを建築事業者とすること」が決定され、第5回理事会において、新会館取得に関する経費を含む令和6年度予算が承認された

○令和6年7月から旧獣医師会館の解体工事に着手し、8月の地鎮祭、9月の基礎補強工事を経て本年1月末に建築工事が終了した

○建物の規模・構造等は、木造2階建て延べ床面積198.4㎡、1階に事務室、役員・応接室等、2階に会議室・図書コーナー等を配置している

○「安全な工事の実施」に取り組んでいただいた工事関係の皆様へ感謝する

おって、検討状況については、次のとおりです。

山口県獣医師会館検討会議検討状況

回	開催日	主な協議内容
1回	令和4年 3月10日	委員長の選任、平成24年度に策定された新会館取得計画、建設資金の積立状況
2回	令和4年 10月13日	現会館の補修状況、新会館取得経費、新会館建設時期、新会館取得方法
3回	令和4年 12月1日	4つの新会館取得方法案（①現在の場所に建替②他の場所に建替③中古マンション等の購入④賃貸）の比較検討
4回	令和5年 6月22日	新会館に必要な施設・設備、提案を依頼する事業者、建築会社に提示する仕様等の資料作成
5回	令和5年 10月5日	建築会社（5社）から出された提案（施設・設備、平面図、参考見積）の比較検討、協議を継続する建築会社選定
6回	令和5年 11月16日	協議を継続する建設会社からの提案への意見集約、新会館取得に向けたスケジュール
7回	令和5年 12月21日	提案に対す意見への事業者からの回答、建設必要経費試算
8回	令和6年 2月15日	建築提案資料の確認、理事会等への報告事項
9回	令和6年 8月24日	旧会館解体工事の状況、新会館建設予定地の地盤調査、新会館建築工事計画
10回	令和6年 11月21日	新会館建築工事進捗状況、竣工式開催計画
11回	令和7年 2月6日	新会館確認検査、竣工式準備、検討会議最終報告

今回の獣医師会館は第3代目に当たりますが、本会会員の重鎮であられる山縣 宏先生から昨年7月会報（第758号）に「第3代会館の新築に祝意と期待」としてご寄稿いただいていますので、是非再読していただければ、と思います。諸先輩方の『自前の会館を！』という熱い思いがさらに伝わり、理解がより深まると思います。また、先生にご指摘いただいたとおり、正面壁面にある「山口県獣医師会館」看板の下方に建築碑銘板を設置してありますので、いつ建設されたのかが一目瞭然、後世まで語り継ぐことが出来ると思います。

新獣医師会館は必要頻度に応じた規模（会議に必要な最小限度の広さ、会員が利用しやすい図書室の整備、維持管理費の軽減等）、耐久性のある素材、

必要な数の駐車場の確保、洪水に備えて床面の40cm強高上げ、等に留意しましたが、さらに、地盤調査の結果、液状化現象対策の必要性が判明し、径50cmの杭を2m～2.5mの深さに計50本打ち込んでいただくなど、地震対策にも配慮いたしました。必ず発生すると言われている南海トラフ巨大地震、その発生前に強化対応できたこと、また会員の皆様に寄付等新たなご負担をお願いすることなく準備した資金の範囲内で建設できたことは私の最上の喜びとするものです。会館取得資金として20年以上積み立てていただいた先輩諸氏を含めた会員の皆様に改めて感謝する次第です。

大阪万博工事や能登半島地震復旧・復興工事等の影響で資材不足、人手不足等が発生し物価が高騰しつつあるという情報もあったことから、高騰する前に着手するというのも命題の一つでありました。予想どおり、現在資材等が高騰しているとのことで、その前に竣工できたことも正に良いタイミングであったと安堵しているところです。

竣工式のあいさつでも触れさせていただきましたが、今年は“巳年”でございます。へびは脱皮しますことから、新しく生まれ変わる、ということで縁起の良い生き物とされています。まさに私共の会館も、新しく生まれ変わる、ということで、私は、内心、最高の年に竣工できたと喜んでいるところでございます。皆様方と共に今からさらに飛躍を目指したいと存じます。山縣先生からもご指摘いただきましたとおり獣医学、獣医師、獣医業の発展にますます寄与する活動の拠点となることを切に願っています。

竣工式に、ご遠方からわざわざご臨席賜りました岡山県獣医師会の中村金一会長、広島県獣医師会の川野悦生会長をはじめ寺川康彦常務理事等、また平素から大変お世話になっております山口県農業共済組合の東 信男組合長、元本会会長の中間實徳先生、前会長の山野洋一先生等にもご出席いただいたことを付記させていただきます。さらに、ご祝儀や祝電、多くのお祝いの豪華絢爛な花、観葉植物等をご恵贈賜りました皆様、本当にありがとうございました。記して深く感謝申し上げます。

竣工式終了後、3グループに分かれて新獣医師会館の見学会を行いました。ご参加いただきました皆様からは、概ね高評価をいただいたと感じております。

終わりに、来年度定時総会の際、交流会開催時に竣工に係る祝賀会を併せて行い、会員の皆様とともにお祝いしたいと考えていますので、その節はまた多数ご出席いただきますようどうぞよろしくお願いいたします。



中領八幡宮 宮崎宮司様による神事



田中尚秋会長の式辞



来賓 山口県議会農林水産委員会 山手康弘委員長



会館取得経過を報告される網本昭輝検討会議委員長



来賓 山口大学共同獣医学部 度会雅久学部長



来賓 山口県農林水産部 大田淳夫部長



来賓 山口県農業共済組合 東 信男組合長理事



来賓 (公社)岡山県獣医師会 中村金一会長



見学会 新しくなった外部案内看板



来賓 (公社)広島県獣医師会 川野悦生会長



見学会 新会館外観



竣工式会場の様子



見学会 1F事務室



見学会 2F会議室



見学会 2F図書コーナー

令和6年度第2回支部長会議開催報告

常務理事 酒井 理

令和7年2月20日(木)午後1時30分から獣医師会館会議室において、令和6年度第2回支部長会議が開催されました。

田中尚秋会長から平素からの会務運営の協力・支援に対する謝辞等の挨拶の後、次の5件の議題について協議していただきました。

議題1 令和6年度事業実施状況について

議題2 山口県獣医師会館検討会議報告について

議題3 狂犬病予防注射指定獣医師の新規指定及び解除について

議題4 山口県獣医師会役員選任について

議題5 表彰者の推薦について

議題1では、令和6年度後半の事業実施状況について報告しました。主な説明内容は次のとおり。

- ・本年1月末の会員数は、令和5年度末の372名から7名増えて、379名となっている
- ・昨年11月に徳山支部の藤村修人先生が逝去された
- ・学会参画等では、本年1月24日～26日の間に、宮城県仙台市で、日本獣医師会獣医学術学会年次大会が開催された。(概要は本会会報2月号に掲載)
- ・山口獣医学雑誌第51号には、7件の論文投稿があり、現在、編集作業を進めている
- ・本会主催の講習会は、11月に産業動物講習会と獣医公衆衛生講習会を公開講座で開催した
- ・第1回小動物講習会は、中国地区小動物講習会を兼ねて12月に開催し、2月に第2回小動物講習会を開催する
- ・山口大学共同獣医学部で実施しているSFTSの検査結果の集積では、4～5月に4件の陽性があったが、その後は、陽性事例はない
- ・昨年9月末の狂犬病予防注射実施頭数は、45,789頭で、令和5年度末に比べ、2,533頭減少している
- ・学校飼育動物保健衛生指導では、日本獣医師会が一括作成した「がっこう動物 第13号」を動物病院、図書館、小学校等に配付した
- ・1月末で、15件の動物医療相談に対応した
- ・新会館取得については、1月末に建物が完成、仮事務所から移転し、2月16日に竣工式を行った

議題2では、山口県獣医師会館検討会議の最終報告を行いました。

- ・検討会議での協議内容は、令和5年3月、令和6年1月に報告を行っており、今回が最終報告となる

- ・令和3年度の理事会で、新会館取得のための検討組織の設置が承認され、各分野の会員4名で、令和4年3月から本年2月まで、11回の会議を開催した
- ・検討状況については、総務委員会、支部長会議、理事会で報告し、令和4年度には、平成24年の当初計画に沿って、取得資金の範囲内で現在の場所に建築することについて承認された
- ・令和6年1月には、本会の希望を多く組み込んで設計し、経費が最も安く、積立資金の範囲内で取得できると見込まれる事業者との契約締結について承認された
- ・さらに新会館取得に関する予算を作成し、令和6年3月の理事会において、会館取得計画と建設等予算について承認された
- ・工事費は旧獣医師会館の解体・外部看板設置・基礎補強等の工事費を含め、約4千4百万円となった
- ・備品等購入費、引越・荷物保管料、仮事務所賃料、竣工式費用、登記費用等、その他の経費を含めても取り崩した会館取得資金と減価償却引当資産の範囲内でおさまる見込み

議題3では、昨年12月に開催された第2回小動物部会委員会において、熊毛支部の二條久保静香先生が新たに指定獣医師に承認されたこと、また、指定解除の該当者がなかったことを報告しました。

議題4では、任期が令和7年度の本会定時総会(令和7年6月8日予定)までとなっている本会役員候補者の推薦について依頼しました。

議題5では、令和7年度の表彰(日本獣医師会長、中国地区獣医師会連合会長、山口県獣医師会長)候補者の推薦について依頼しました。



新たな獣医師会館会議室での初めての支部長会議

第66回山口県家畜保健衛生業績発表会を開催

県庁支部 大 山 ゆ き

令和7年2月14日(金)、山口県庁において、第66回山口県家畜保健衛生業績発表会を開催しました。

本発表会は、家畜保健衛生所（以下、家保）等の職員が日頃の業務の成果を発表する場であり、中国四国ブロック家畜保健衛生業績発表会で発表する優秀な演題を選出する場でもあります。

中国四国ブロックへは、全9演題の中から次の3演題を選出しました（発表順に記載）。

- 1 小規模家きん農場での高病原性鳥インフルエンザ発生と飼養衛生管理指導（中部家保 工藤彩夏）
- 2 流行性出血病ウイルス血清型6の関与が疑われる牛の嚥下障害、流産の事例（西部家保 藤原優美）
- 3 流行性出血病ウイルス血清型6の関与を疑う黒毛和種の嚥下障害事例（中部家保 福岡恒）

昨年度選出された演題が全国発表会で農林水産省消費・安全局長賞を受賞したところであり、今年度選出演題も昨年度に続き、全国の中でも優良な発表となることが期待されます。

なお、各演題の内容については、農林水産省のホームページに抄録が掲載される予定ですので、ぜひ御覧ください。

最後になりましたが、当日御助言をいただきました皆様には、それぞれの専門的なお立場から、適切かつ貴重な御意見をいただき、この場をお借りし、改めてお礼申し上げます。

関係者一同、本発表会の成果を今後の業務に活用し、本県畜産業の発展に努めてまいります。

1 小規模家きん農場での高病原性鳥インフルエンザ発生と飼養衛生管理指導：中部家保 工藤彩夏、川分敬子

国内の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）が多発する中、令和6年1月に鶏やあひる等、計23羽を愛玩飼養する小規模家きん農場（小規模農場）でHPAIが発生。発生農場は定期報告の提出がなく、防疫意識が希薄で家きんを放飼。農場周辺のため池にカモ等が飛来、野外からのHPAIウイルス侵入を示唆。防疫措置は特定家畜伝染病防疫指針に基き実施。移動及び搬出制限区域（区域）を設定し、消毒ポイントを2か所設置。区域内の肉用鶏農場1戸に発生予防対策を指導。県内養鶏場全戸及び区域内の小規模農場に緊急消毒を実施。防疫措置期間中、県内産の鶏卵・鶏肉は輸出を一時停止。発生農場の鶏飼養再開時には、飼養衛生管理の遵守を継続指導。

更に小規模農場に対し、本発生事例を教訓とした防疫対策の啓発と各々の飼養状況に即した衛生指導を実施。手指消毒や消石灰を散布する農場が増加し飼養者の意識が向上。今後、小規模農場の防疫措置に関し、指針の検討が必要。

2 流行性出血病ウイルス血清型6の関与が疑われる牛の嚥下障害、流産の事例：西部家保 藤原優美

令和5年肉用牛1農場(A農場)で流産が発生。令和6年肉用牛2農場(B、E農場)で流産、肉用牛2農場(C、E農場)及び乳用牛1農場(D農場)で嚥下障害が発生。病性鑑定を実施。A、B、E農場において剖検後、病理学的検査、細菌学的検査及びウイルス学的検査を、C、D農場ではウイルス学的検査を実施。免疫組織化学的染色でA農場流産胎子の肝細胞細胞質にてEHDV-6陽性。A、E農場でEHDV-6を分離。A、C、E農場でEHDV-6特異遺伝子が検出。中和試験で、全農場からEHDV-6抗体陽性牛を確認。A農場流産胎子体液からEHDV-6の抗体を検出。A農場の流産及びC、E農場の嚥下障害事例はEHDV-6の関与を疑うと診断。その他農場は原因不明。全ての農場でEHDV-6の農場内流行を示唆。家保は診療獣医師、管内牛飼養者へEHDV-6の衛生情報を配布。飼養衛生管理基準遵守の再徹底、疾病の啓蒙、吸血昆虫対策、発症牛の隔離と早期受診及び治療等を指導。巡回時には殺虫剤を携行。今後も衛生指導で、発生予防及びまん延防止を継続。

3 流行性出血病ウイルス血清型6の関与を疑う黒毛和種の嚥下障害事例

2024年10～11月、流行性出血病ウイルス血清型6(EHDV-6)の関与を疑う嚥下障害4症例に遭遇、うち2症例を報告。病性鑑定の結果、発症牛または同居牛の全血からEHDV-6特異遺伝子検出、EHDV-6分離。血清中和抗体価はEHDV-6が128～256倍以上、イバラキウイルスが8～16倍で両ウイルス間の血清学的交差性は低い。以上からEHDV-6の関与を疑う嚥下障害と診断。病性鑑定で検出されたEHDV-6は、遺伝子解析により、2023年九州・山口分離株と近縁。一方、2024年九州分離株とは11～13塩基変異があり、2024年は2つのウイルス株が国内に侵入した可能性。2023、2024年の未越夏牛の疫学調査では2023年9～11月に抗体陽転（12/59頭）、2024年11月に抗体陽転（28/56頭）うち13頭遺伝子検出、2頭ウイルス分離。2023年、2024年ともに10月にはEHDV-6が県内に侵入、県広域でウイルスが浸潤したと推察。EHDVは遺伝子検出、ウイルス分離期間が長く、経過が長い場合でも積極的な検査が必要。

告示

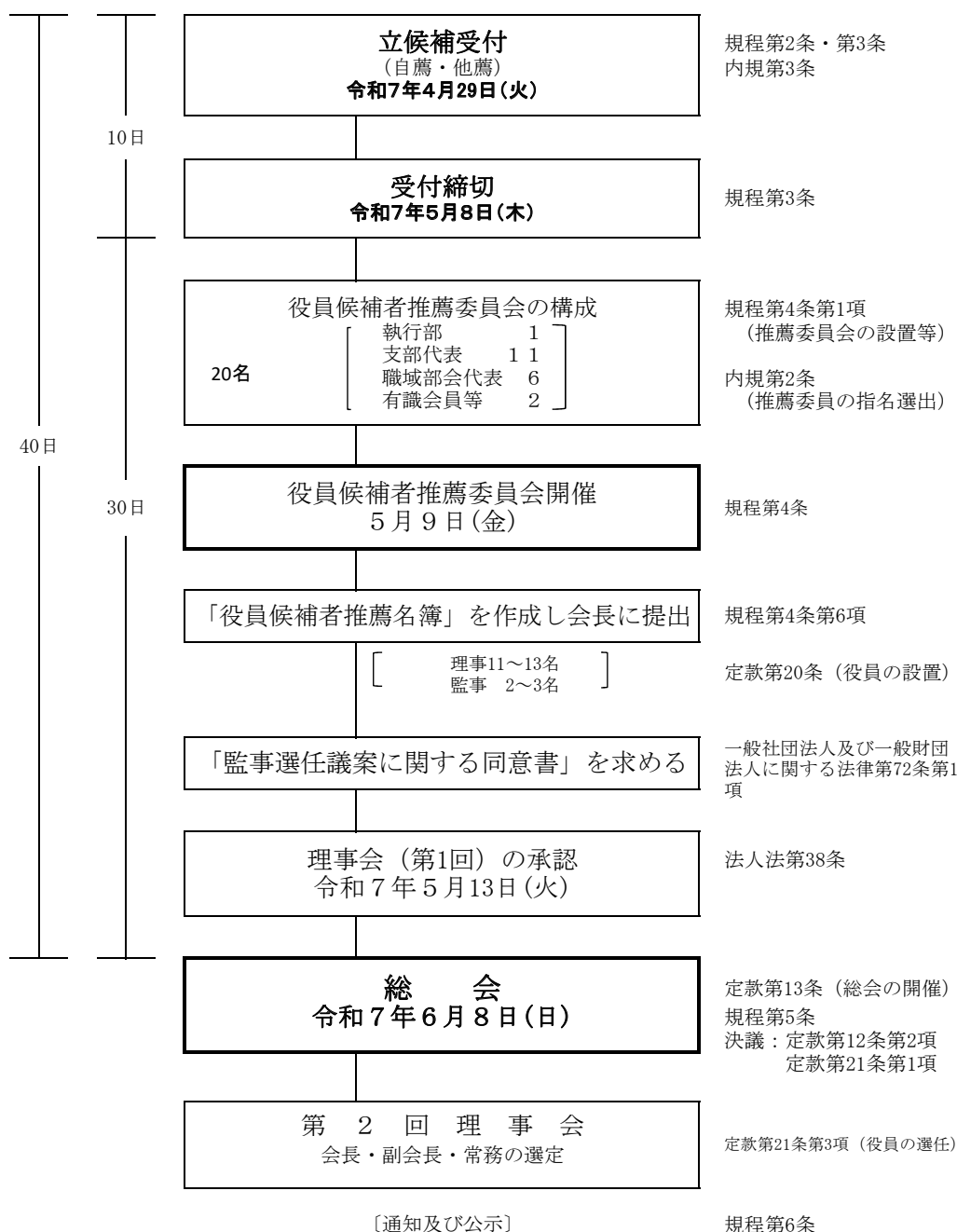
任期満了に伴う山口県獣医師会役員選任に係る候補者の受付

令和7年度定時総会をもって、現役員の任期(2年)が満了します。これに伴う新たな役員選任に係る候補者の受付を、定款第20条、役員候補者選任規程第2条・3条並びに同内規第3条に定めるところにより、下記のとおり受け付けることとします。

記

- 1 受付期間 令和7年4月29日(火)～令和7年5月8日(木)
- 2 届出用紙 自薦の場合：役員立候補届(別表1-1)
他薦の場合：役員立候補推薦届(別表1-2)
- 3 その他
(1) 届出用紙は各支部又は本会あて請求してください。(本会ホームページにも掲載します)
(2) 封書に「理事候補届」、「監事候補届」と朱書きの上、本会事務局あてに送付してください。

役員選任のフロー(案)



公益社団法人山口県獣医師会役員候補者推薦規程(改正案)

(目的)

第1条 定款第21条に定める理事及び監事(以下「役員」という。)の候補者は、公益社団法人山口県獣医師会役員候補者推薦規程(以下「この規程」という。)によるものとする。

(役員候補者)

第2条 ~~正会員のうち~~ 次の各号に定めるものを役員候補者とする。

- (1) 立候補受付期間内に「役員立候補届」(別表1-1)を書面で本会に提出した立候補者。
- (2) 立候補受付期間内に「役員候補者推薦届」(別表1-2)を書面で本会に提出された立候補者。
- 2 理事及び監事の候補者は、相互に兼ねることができない。なお、支部長は理事、監事のいずれの候補者となることができない。

(役員立候補者の受付)

第3条 立候補者の受付期間は、役員の任期満了40日前から30日前までの10日間とする。但し、受付期限日が休日にあたる場合は、その翌日の正午までとする。
2 受理した立候補者名は、次条に定める役員候補者推薦委員会が開催されるまで公表しないものとする。

(役員候補者推薦委員会の設置)

第4条 会長は、別表2に定める区分ごとに正会員を代表するものとして委嘱した者(以下「推薦委員」という。)20名をもって構成する役員候補者推薦委員会(以下「推薦委員会」という。)を設置する。
2 推薦委員は、役員選任のつど会長が委嘱する。
3 推薦委員会は、会長が招集し、推薦委員の三分の二以上の出席がなければ開催することができない。
4 推薦委員会の委員長は、推薦委員の互選による。
5 推薦委員会の議事は、出席者の過半数によって、これを決する。但し、可否同数のときは委員長の決するところによる。
6 推薦委員長は、別表3に定める役員候補者推薦名簿を作成し、会長に提出する。

(選任議案の提出)

第5条 会長は、前条第6項による役員候補者推薦名簿をもって役員の選任に関する議案を総会に提出する。

(通知及び公示)

第6条 役員の選任に関する議案が総会において可決されたときは、会長はただちに役員に選任された者(以下「被選任者」という。)にその旨を通知し、被選任者は役員に就任するものとする。

附 則

- 1 社団法人山口県獣医師会役員選任規程(平成12年5月28日制定)は廃止する。
- 2 この規程の制定及び改廃は総会の議決を経なければならないものとする。
- 3 この規程は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律(平成18年法律第50号)第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。
- 4 この規定は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の一部を改正する法律(令和6年5月22日法律第29号)の施行される日から適用する。

〔別表1-1〕

役員立候補届

この度の山口県獣医師会役員（理事・監事）に役員候補者推薦規程第2条に
理事または監事に○をお付け下さい
 より、立候補します。

記

- 1 氏名
- 2 住所
電話
- 3 生年月日
- 4 主要な経歴

公益社団法人 山口県獣医師会
 会長 様

令和 年 月 日

氏名 _____ 印

〔別表1-2〕

公益社団法人 山口県獣医師会
 会長 様

令和 年 月 日

推薦者氏名 _____

推薦者住所 _____

役員候補者推薦届

この度の山口県獣医師会役員（理事・監事）に下記の者を適任者と認め役員
理事または監事に○をお付け下さい
 候補者推薦規程第2条により、本人の承諾を得て推薦届を提出します。

記

- 1 候補者氏名
- 2 住所
電話
- 3 生年月日
- 4 主要な経歴

上記については立候補することを承諾します。

令和 年 月 日

氏名 _____ 印

「人間至る処青山有り」

山口支部 中間 實 徳

(山口大学名誉教授・東亜大学名誉教授)

タイトルの「人間至るところに青山あり」の由来は、幕末の僧である月性の「清狂遺稿」による。人間(じんかん)とは世間のことで、青山は骨を埋める場所、つまり墓の意。大志を抱いて故郷を出て大いに活躍せよという教訓。

アメリカでは勤務先を色々変えて昇進するのが普通で、卒業以来ずっとその大学等に残るといことはしません。他人の飯を食って揉まれてこそ大成するのでしょう。

私が大阪府立大学講師から山口大学助教授へ転出する際、恩師の蘭守龍雄教授から、送別会を先生のお宅でして頂くことになりました。その折、先生は私に山口へ行ったら骨を埋める積りで行きなさいと涙ぐんで仰いました。大阪府大時代では、主に乳牛の臨床をやっておりましたが、1977年7月から文部省在外研究員としてアメリカ・ミズリー大学獣医学部へ留学しました。そこでは臨床教育に力を入れた教育がなされていました。特に小動物外科のBojrab教授の犬の椎間

板ヘルニアに対する椎間板腹側造窓術は、とても興味ある手術法でした。帰国してすぐにダックスフントの椎間板ヘルニアの症例が来院し、私はこの症例に椎間板腹側造窓術を施し、後肢の麻痺で歩行が出来なかった犬が術後7日目で歩けるようになりました。大阪府立大学と山口大学での症例を重ね、良好な成績を収めたので、日本獣医医師雑誌1982年(35巻、307-310)に発表しました。日本では犬の椎間板ヘルニアの治療にはこれまで内科療法のみで、手術法はありませんでした。その後、1991年に台湾の台北大学、1996年東京大学、1998年に農工大学、鳥取大学の他、沖縄県や北海道の各地の獣医師会等から講演依頼を受け「犬の椎間板ヘルニアに対する椎間板腹側造窓術の治験例」を話してきました。山口大学では専ら小動物外科の手術をやってきました。勤務先の状況で、小動物の外科を主にやったのは、それをやらなければならない立場に置かれてしまったことと、それをやる使命感があったものと考えます。1993年12月にはイン

ターズ社（現・EDUWARD Press）の敷 旅人社長が大学の私の研究室へ来られ、「テーマ別の小動物症例報告集・関節疾患」を出版したいので、私にその分担執筆と監修を依頼されました。第一線で活躍の18名の先生方による分担執筆で1993年に刊行できました。

また、私の1999年の定年記念出版として、同社から1998年2月に「小動物の脊椎・椎間板疾患：診断と治療」を出版しました。出版前の1996年1月に阪神・淡路大地震が起き、執筆者各位の賛同を得て出版社のインターズーを通じ、執筆料を災害復興基金本部へ送って戴きました。

また、私が山口大学の助教授として赴任した1981年頃は、全国の大学家畜病院会議は毎年秋の獣医学会の後に開催されていて、その病院の業績を報告することになっていました。当時、山口大学は全国16大学（国立10、公立1、私立5）中、最下位の鳥取大学に次いで下から2番目でした。私が赴任して数年後には東大に次いで上から2番目に上昇しました。

若い頃に、外国を始め多くのところを見て回り、見分を広めることはとても重要です。東亜大学では在学中に外国留学ないし外国へ行き、関連大学や施設等を見てくるのが必須となっています。

山口県動物由来感染症情報関連体制整備検討会 令和6年度第2回会合 報告

監事 白 銀 政 利

令和7年2月7日に第2回会合が県庁において開催され、県獣医師会推薦検討委員として出席しましたので、その概要を報告します。当日は、この冬一番の寒波到来ということで、大雪の降り積もる中での開催でした。

1 令和6年度調査結果について

今年度は、イヌ、ネコを対象とした重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の調査が、会員動物病院の協力（検体採取）と、県環境保健センターでの検査（抗体・ウイルス遺伝子）で実施されました。その結果は、下表のとおりです。

動物種	検体	採取場所	検体数	結果
イヌ	血清	動物病院 (7施設)	28	2(7.1%) IgG ^{*1} 検出
ネコ	口腔 拭い液	動物病院 (8施設)	28	0(0%) 遺伝子 ^{*2} 検出
	直腸 拭い液		26	0(0%) 遺伝子 ^{*2} 検出
	口腔 拭い液	動物愛護	1	0(0%) 遺伝子 ^{*2} 検出
	直腸 拭い液	センター	1	0(0%) 遺伝子 ^{*2} 検出

※1：ELISA法による抗SFTSウイルスIgG抗体の検出

※2：RT-PCR法によるSFTSウイルス遺伝子の検出

イヌについては、令和元年度以降の検査結果を含め178検体中6検体で陽性（陽性率3.4%）であり、陽性例は県内に広く分布しているとの考察でした。

一方、ネコについては、令和2年度以降の検査結果を含め118検体のすべてでSFTSウイルス遺伝子が

検出されていないという結果でした。国立感染症研究所の報告では、令和6年9月末までに、山口県内でSFTS発症ネコが55匹確認されているとのことで、このことを勘案すれば、今年度の検体採取時期が10～11月であったことが検出されなかったことの一要因ではないかとの考察がされました。

2 令和6年度の事業報告書(案)と啓発資料(案)について

今年度の調査結果（1に記載の内容）を掲載した事業報告書(案)と啓発資料(案)が事務局から示され、委員間で議論され、将来を見据えたいくつかの修正意見も出ました。結論として、啓発資料(案)のネコの調査結果表に令和2年～5年と令和6年の採取動物の状態が異なる点を示す注記を付記することで了承されました。

3 令和7年度事業計画(案)について

今年度の調査結果で、ネコの検体採取時期がSFTSの流行時期と異なっていたことが課題であったため、調査期間を令和7年4月～9月としてネコのSFTSの調査を行う案が示され、了承されました。なお、動物病院の協力で採取される検体の数については、120検体を目標とすることとなりました。

今後、県事務局で関係機関等と調整の上、4月から調査が開始される予定です。

ヒトのSFTSについては、死亡率が27%ともいわれる重篤な疾病であることから、県獣医師会として、山口大学との連携により実施しているSFTS検査の結果について、県のPR資料に反映させるなどの働きかけを積極的に行っていく必要があると感じました。

リレー随筆

宇都宮への帰省旅行

豊浦支部 直井 秀明

(下関農林事務所畜産部)

東部地区家畜診療所の田村先生からバトンをいただきました。現在、家畜保健衛生所に勤務し、牛、豚、家きん等の家畜の伝染性疾患の検査や、飼養衛生管理、安全な畜産物供給のための医薬品の適正使用に係る用務等に携わっております。

近況報告として、今年の1月の三連休を使って、二泊三日で私の実家がある栃木県高根沢町（宇都宮の隣町）に帰省しましたので、私が生まれ育った宇都宮のご案内も兼ねてその様子をご紹介します。帰省自体、コロナ禍直前の2019年末以来、約5年ぶりの帰省となりました。

今回の帰省の個人的な目的は、①お墓参り、②家族で栃木観光（日光又は大谷資料館等）、③「正嗣の餃子」と「しもつかれ」を食べる、の3点でした。

一つ目のお墓参りですが、前回は子供が小学校に上がる前でしたので、子供にとってはほぼ初めて。子供からの「これ（卒塔婆）って何？何で置いてあるの？」という素朴な質問に言葉が詰まり、慌てて調べて「卒塔婆は亡くなった人を供養するために立てているんだよ。」「お釈迦様のご遺骨を納めた塔を意味するサンスクリット語の『ストウパ』って言葉から来てるらしいよ。」と返しました。改めて聞かれると答えに窮します。以前、やはりサンスクリット語由来の「お盆」についても聞かれた記憶が甦ります。

二つ目の観光は、子供に日光東照宮も見せたかったのですが、宇都宮市からいろは坂を経て片道だけでも半日掛かり、時間的に難しいということで、今回は宇都宮市大谷町にある大谷石（おおやいし）の地下採掘場跡、大谷資料館に行きました。

大谷石とは、日本地質学会が選定する栃木の「県の石」にも選定される凝灰岩（なお、山口県の石は石灰岩（主要産地：秋吉台））です。軽く、軟らかい、多孔質で耐火性に優れた特徴から、建材として蔵の壁や塀に用いられており、栃木県に帰省すると、街のあちこちに使用されており、生活に自然に溶け込んだ石材だと感じます。なお、宇都宮駅に設置されている餃子像（餃子のビーナス像）も大谷石製です。

大谷石地下採掘場跡は、江戸時代中期から本格的に掘られた約2万平方メートル（140×150m）、深さ30m（深い場所では100m以上）の地下空間で、採掘後の空間は埋め戻された部分もあり、その全貌は不明だそうです。「その埋蔵量は約6億トンと推定され、採掘箇所は約200箇所（廃坑も含む）。そのうち現在稼働中のものは6箇所、年間約1万トン程度を出荷（大谷石石材協同組合HPから）」と、現在も近隣で生産が続けられています。採掘方法は、坑底での坑内掘りによる地下採掘が主流（一部は露天掘り）で、その地下空間では、太平洋戦争時には、工場疎開により、約15,000人勤務の工場として、終戦まで中島飛行機(株)が飛行機の地下生産を行ったそうです。

私も初めて入りましたが、手持ちのライトでは横穴の奥まで光が届かないその広大な空間は、三次元的

に縦横に深く大きく掘られ、垂直な壁と水平な天井がライトアップで浮かび上がり、暗い中にも所々にある垂直の縦穴の奥からは光が差し込み、また雨水が水深30mの深さまで溜まっている部分もあり、さながらドラクエのダンジョンの様に圧倒されました。その不思議な空間を活かして、1981年の映画「セーラー服と機関銃」や映画「るろうに剣心 京都大火編」（2014年）等多くの撮影も行われ、人を天井からロープで吊るすため、るろうに剣心で使われたアンカーフックが壁に残されていました。資料館の周辺の山も、山の斜面に突然垂直の壁が現れ、巨大なサイコロが斜面から切り出された跡の様な不思議な景色が見られます。

目的の三つ目である、私が生まれ育った「正嗣の餃子」と栃木の正月の郷土料理である「しもつかれ」は実家を買って帰って、「〇〇店の焼き手が変わった」だの、「〇〇店が撤退した」だの話しながらしみじみといただきました。なお、しもつかれは、ものによってはつんとした強い酒粕の香りと一見吐瀉物にしか見えない見た目から、地元の人でも好き嫌いが極端に分かれることで有名です。私は好きですが、お気を付けください！

最終日、足早に二荒山神社を参拝し、次の目標は「子連れで日光観光」だと固く決心しながら山口に帰ってきました。

今回は、株式会社秋川牧園でご活躍の山口支部の小宮山暁史先生にバトンをお渡ししたいと思います。小宮山先生よろしくお祈りします。



大谷資料館（大谷石地下採掘場跡）

お知らせ**会員異動報告について**

人事異動等で、会員の所属・住所等の変更があった場合は、すみやかに所属支部事務局に「会員異動通知書」を提出してください。手続きが遅れると、「日本獣医師会雑誌」をはじめ、(公社)日本獣医師会や本会からの通知等が届かなくなりますので、よろしくお願ひします。

※様式は本会ホームページ(各種様式)に掲載しています。

今後の主な行事(予定)

- 3月13日 ・動物慰霊祭(県動物愛護センター)
- 3月13日 ・第4回理事会(県獣会館)
- 3月18日 ・令和6年度山口県動物愛護管理推進協議会(県庁)
- 4月10日 ・中国地区獣医師会連合会定期総会(松江市)
- 4月28日 ・令和6年度事業監査(県獣会館)
- 5月9日 ・役員候補者推薦委員会(県獣会館)
- 5月13日 ・令和7年度第1回理事会(県獣会館)

事務局だより

- 2月1日 ・仮事務所・保管倉庫 荷物運搬(県獣会館)
- 2月6日 ・第11回山口県獣医師会館検討会議(県獣会館)
- 2月7日 ・山口県動物由来感染症情報関連体制整備検討会議(県庁)
- 2月13日 ・令和6年度馬飼養衛生管理技術地方講習会(山口グランドホテル)
- 2月14日 ・山口県家畜保健衛生業績発表会(県庁)
- 2月16日 ・山口県獣医師会館竣工式(小郡ふれあいセンター)
- 2月20日 ・第2回支部長会議(県獣会館)
- 2月23日 ・第2回小動物講習会(防長苑)
- 6日 20日 事業推進会議

次回編集委員会 3月25日(火) 13:30~

山口県獣医師会会報 第766号 令和7年3月10日(毎月1回発行)

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 豊川 剛

発行責任者 田中 尚秋

印刷 コロニー印刷